マンスリートピックス

1．決壊した和知ダムのゲート
2．アルシメードは語る
3．工業立地適正化法の意図するところ

1．先日，増水したダムのゲートが突然吹っ飛ぶという事故があった。原因についてはいろいろと取沙汰されたが，われわれ技術者は，ここでこのような事故が起こって背景の一つに，設計者，施工者，使用者の間に意志の疎通が欠けていたのではないかと冷静に反省すべき点があることを考えるべきである。

技術者は設計者，施工者を問わず，施工中，または完成した構造物に対して，時々刻々荷重条件が異なり，しかもその荷重が衝撃や動きをともなう場合，おのおのの状態に対してその構造物がどのような場合にも安全であるかどうかを検討すべきことはいうまでもない。しかし，このような設計計算にはすべて多くの仮定があって，真に構造物が安全であるためにはその仮定どおりの施工がなされていなければならない。いままで普通は設計計算書が施工者に手渡されることは少ないし，また設計図に設計計算における仮定が書かれていることもないようである。

設計者は新しい構造力学を学び複雑な設計計算方法を理解し駆使すると同時に，施工者にいかにして自分の設計した意図を伝えるべきか，また，いかにして施工し易い設計を行なうかにもっと努力すべきである。一方，施工者は，自ら進んで問題点を見出し設計者と意見を交わす機会を持って，設計者の主旨を十分理解して下部組織にまで徹底し施工に反映するよう努力すべきである。

このような努力の結果，使用者がその仕様通りの監理を行なえば，かかる事故を未然に防止できるのではないだろうか。 [S]

2．アルシメードと呼ばれるフランス海軍の深海調査潜水艇が，日本海溝で潜水している。1961 年完成以来2度目の訪日だ。その前身 FNRS 3 号も 1958 年に来日したが，今度のアルシメードは FNRS 3 号の2倍以上，9千数百 m の潜水記録を持っている。建造費 1.8 億円。目的は何か……。いろいろあろうが，ニッケル・クローム・モリブデン鋼製直径 2.1 m のゴンドラに秘めた夢がきらりと光っている。

話は変わるが，われわれ建設技術者は，社会の財産を造り上げる。造ったものは 10 年や 20 年でこわれない。好むと否とにかかわらずそれが社会を変え人生を変えてゆく。それだけにわれわれは深く人生を洞察し，より幸福な将来のために役立つものを造らなければならないと思う。

客観的合理性の追求も必要であるが，現段階の数字にはそれなりの限界があることを忘れてはいけない。数字をもとに機能を追いすぎると，どうしても人生をメカニックに評価しすぎる。数字に現われないゆとりや夢というものを，人生に欠くことのできないそれらのものを，どう評価しどう建設技術に組み入れるからわれわれに負わされた大きな問題点である。 [J]

3．工業立地適正化法案が6月 29 日に閣議決定が行なわれ，ただちに国会に上程された。産業や人口の大都市への過度集中と，これにともなう公害の発生を防ぎ，産業の効率を高め，国民生活の向上をはかることを目的とするものであって，まことに結構なことである。しかし過去において多数の立派な制度が制定されたにもかかわらず，運用がうまくゆかなかったために，ほとんどその効果を発揮するに至らないものが多くの数にのぼっているのではなかろうか。工業分散促進地区の指定，工場の新増設の許可の基準，工場分散促進地区から追い出される工場を受け入れる指定工業地区の指定およびその地区の工業立地計画等，これらの中のどの一つを取り上げてみても非常に困難なものである。工場の新増設の許可権を持つ地元知事は（原案は所管大臣および通産大臣であったが，話しがまとまらず結局知事に落着いたと新聞は報じている）目前の利害にとらわれることがないように，また各政府機関が強い協力体制を敷いてかつ積極的な姿勢をもって望まなければ，かけ声だけに終ってしまうであろう。わが国の人口は近く1億人に達しようとしている。このまま放置しておけば今後ますます人口の都市集中が行なわれるであろう。このときにあたってこの法律が大きな実を結ぶよう，成立することを希望したい。 [C]